

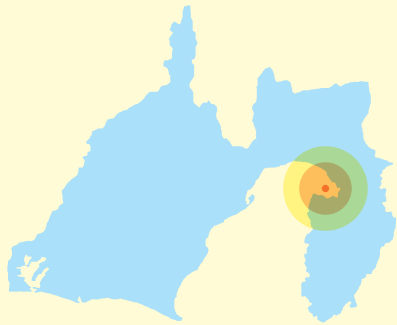
●北限域（内浦湾）の造礁サンゴ群落保全会

代表 高田 義孝

〒410-0223 沼津市内浦三津 88-34 内浦漁業協同組合 tel.055-943-2316

主な構成員（人数）：漁業者 2 名、漁業者※以外 16 名 計 18 名

関係市町：沼津市 ※内浦漁業協同組合（&平沢マリンセンター）・東海大学・NPO 法人しおさい 21
伊豆三津シーパラダイス・平沢海浜利用委員会・（同）游渚



●活動地域

駿河湾奥北東部に位置する内浦湾には、数十種の造礁性イシサンゴが生息し、砂礫地にはエダミドリイシがパッチを形成しています。冬場にはヒロメやフクロノリなどの大型海藻が繁茂し、特異な景観を呈します。

●協定面積 8ha

対象種の紹介

内浦湾のサンゴ群落は、主に造礁性イシサンゴのエダミドリイシ *Acropora pruinosa* により形成されています。本種は、九州から千葉県館山まで分布する温帯域に特有なサンゴで、樹枝状の群体がパッチ状に広がり、周辺の岩礁域や海草藻場とは異なる生物群落を形成しています。

また、対象種のエダミドリイシは、環境省レッドリスト(2017)で絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されています。



■エダミドリイシ



■内浦湾のエダミドリイシ群落

対象種の分布・生育状況

内浦湾のエダミドリイシ群落は、90 年代初頭には 5,000 m²ほどの広さをもち分布北限域最大とされていましたが、現在は小群落が点在する状態で、総面積は発見当時の 2.3% ほどに縮小しています。縮小の主な原因は 1996 年冬の低水温とガンガゼ類による食害です。これに加えて、冬場には大型藻類が繁茂し、サンゴを覆い尽くすことでサンゴの成長を妨げます。

保全活動の必要性

内浦湾のエダミドリイシ群落は、他生物に住処や隠れ家を提供するとともに、食物連鎖における一次生産者としての役割も担う生態系の基盤生物であり、その保全が不可欠です。また、内浦湾のエダミドリイシ群落は、砂地というサンゴにとっては特異な環境に生息するため、生態学的にも貴重な存在です。

これまでの活動成果

ガンガゼや大型藻類をエダミドリイシ群落上から除去することで、既存の群落を維持しています。また、ロープや基盤を用いて養殖したエダミドリイシ群体を群落縁辺へ移植することで、群落面積の拡大を図ってきました。



今後の活動指針

●保全活動の目標

移植によりサンゴ群落の面積は少しずつ拡大傾向にあります。今後も現存するサンゴの減少を防ぐ取り組みを続けていきます。また、2021 年に受精卵から育てているサンゴの生育状況をモニタリングしていきます。

